



もなく5m, 10mといった滝も混ざるようになる。最初の10mは、左岸を登り、中段をトラバースして右岸に移り、直登する。続く5mはブッシュを利用しながら右岸を直登する。2つめの10m滝は典型的な階段状。1段1段に1足1足をのせて直登する。落差の小さなものも含めて、すべての滝が直登できるのが楽しい。沢が右手にカーブすると突然傾斜がゆるやかとなってしまった。連瀑帯は終了である。あとは細い流れが続いているだけ。それを最後までつめあげ、やぶをこいで雲何曾根の稜線に出る。

(記・)

[タイム] 遊行開始(11:25)→右沢出合(11:40)
→遊行終了(13:40)→稜線(13:55)

滝沢川左俣右沢

1990年7月13~15日

L:

7月13日 福島(20:15)⇒三条(23:00)

7月14日 三条(7:00)⇒会越街道記念碑駐車場(7:30)⇒滝沢川林道終点(9:00, 9:20)→モチイト沢出合(10:15)→ローソク岩(11:45)→小屋場の沢出合(13:15)→ワラビ平(16:00)

三条部落学校跡に泊まる。会越連絡林道本名・津川線の貉ヶ森北側の記念碑(県境)の駐車場に車を1台デポしてから、引き返して滝沢川に向かう。

滝沢川林道終点到車を止め、いよいよ滝沢川へ。ニノ平沢手前までは山道を進み、ニノ平沢出合の葦の原から川原に降りる。モチイト沢出合を過ぎると、側壁が現われるが、沢の中は川

原が続いている。右手スラブ帯にローソク状の岩塔が現われ、これを過ぎたあたりから、沢幅も狭まり、滝がかかるようになる。

2段10m滝は、左側壁に残されてあったハーケンを使って通過。これ以降は5～6mの釜を持った滝が出てくるが、高掛き3回で通過する。

ビバーク地は、右俣の出合、舌状に出張った台地に求める。ビニールシートの小屋掛けがあり、大鍋がある。春先のゼンマイ小屋だろうか。あたり一面ワラビが茂り、ワラビ畑のようである。

7月15日 ワラビ平(7:00)→左沢出合(7:30)→黒いナメ滝(8:35)→稜線(9:25)
→貉ヶ森山(9:55)

夜半に雷雨。テン場下の支沢には、鉄砲水が出た跡が残っていた。7:00遡行再開。左俣に入る。30分程で右沢出合。右沢は貉ヶ森山頂あたりから流下してくる。水量も少なくなり、階段状、トイ状、ナメ状の滝が続き、高度を上げる。最後は貉ヶ森山からのびる稜線に出、ヤブこぎ30分で山頂に立つ。山頂から林道までは、登山道が続いていた。

雪渓と泳ぎを覚悟(期待)してきたが、スノーブリッジの崩壊跡が1カ所みられたのみであった。ザイルを出すこともなかった。(記・ノ)

滝沢川源流右俣左沢 1990年8月25日

Li 郎

鹿村三条から大石田沢にそってのびる林道に車を進める。県境を越えて新潟県に入り、大久蔵林道分岐手前の広場にパーク。今日の行程は滝沢川源流である。右俣左沢を下降して左俣左沢を遡行の予定。そのためにも、まずは貉ヶ森山を目指す。貉ヶ森山へは新しく刈り払いの行われた踏跡が続いている。一昨年大石田沢を遡行した時にはなかった刈り払いである。昔の古い道が復活して上々の登山道と変わっている。30分とかからずに1等三角点のある貉ヶ森山山頂へ。

山頂で滝沢川源流部の地形を偵察したが、樹木のためによくわからない。とにかく下降にかかろうと、まずは滝沢川と大石田沢を分ける尾根上の踏跡をたどる。この踏跡は15分ほどでおしまいとなってしまう、いよいよやぶこぎで右俣左沢の源頭を目指すことになる。踏跡の終点から低い方へ低い方へとたどる。10分程で目的の沢にでた。沢といっても、このあたりは小さな窪みにすぎない。

2mほどの小滝を3つクリアーして下ると、左岸から倍ほどの水量を持つ小沢